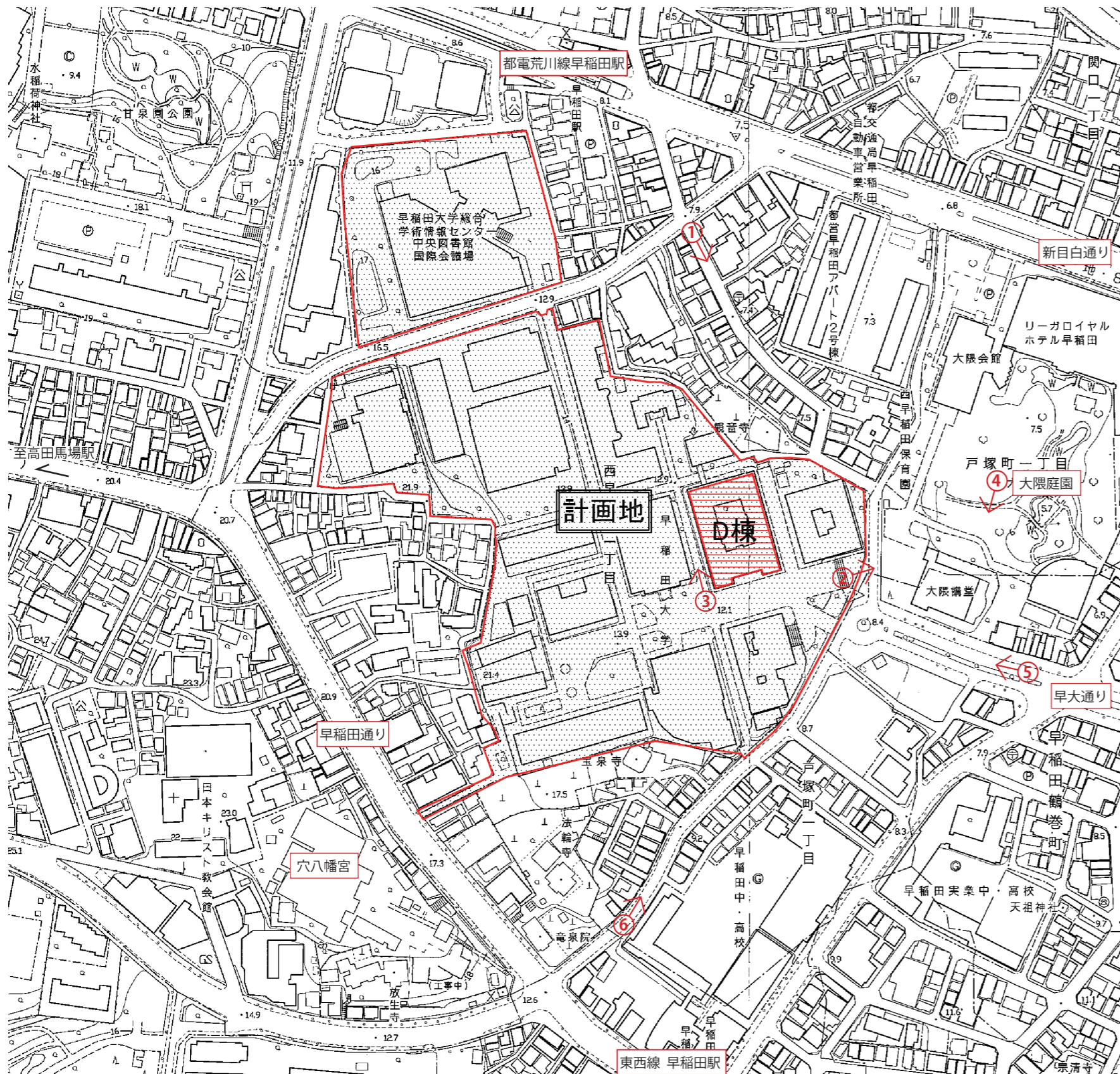


早稲田大学早稲田キャンパス D 棟（仮称）建設計画について

早稲田大学早稲田キャンパス D 棟（仮称） 建設計画



## 【敷地周辺図】



## 【周辺環境】



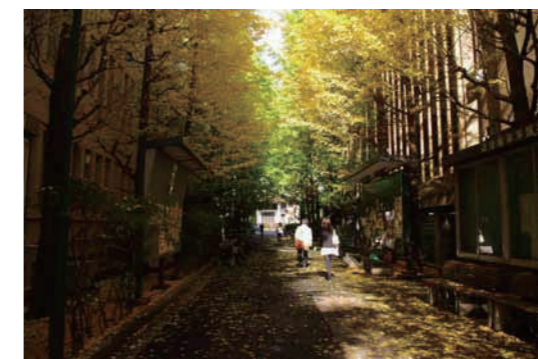
### 1. 大隈通り商店街

都電荒川線早稲田駅から早稲田大学正門まで向かう通り道にあたり、学生を対象とした飲食店などが多い商店街となっている。



### 2. 大隈記念講堂（国指定重要文化財）

重要文化財に指定され、温かみある色彩を基調とした、風格あるデザインの大隈記念講堂は大学だけではなく地域のシンボルとなっている。



### 3. 早稲田キャンパス内の銀杏並木

みどりあふれるキャンパスは地域に開放され、秋になると黄葉する銀杏並木は市民の絶好の散歩コースとなっている。



### 4. 大隈庭園

和洋折衷した落ち着いた庭園は歴史を今に伝えるとともに、早稲田キャンパスと合わせ新宿区「七つの都市の森」に位置付けられている。



### 5. 早大通り

早大通りは昭和30年代の区画整理事業により整備され、道路中央に列植したけやきを中心とし、みどり豊かな道路景観を形成している。



### 6. 早大南門通り商店街

東京メトロ東西線早稲田駅から大学南門までの通り道にあたり、道路両側に学生を対象とした飲食店が多く、活気あふれるまちなみを形成している。

## 【敷地概要】

計画地	：	東京都新宿区西早稲田1丁目6-1
敷地面積	：	73,659.5㎡
用途地域等	：	第一種住居地域（一部 近隣商業地域 商業地域） 防火地域 40m第3種高度地区
建蔽率	：	60.2%
容積率	：	400%

※当該計画は今後の行政協議等・今後の計画により変更となる場合があります。

「新宿区都市マスタープラン」  
景観まちづくりの方針

- ・計画地は同大学施設である、大隈記念講堂(国指定重要文化財)、早稲田大学2号館(旧図書館)(都選定歴史的建造物)、演劇博物館(区指定有形文化財)に近接しており、地域の個性となる景観を形成しております。
- ・「七つの都市の森」を核とする「みどりの景観ゾーン」に位置づけられており、連続する緑のネットワークを形成を図る地域となっています。

3 景観まちづくりの方針

(1) 地域の個性を活かした景観誘導

新宿の持つ多様性や奥の深さを活かし、地域の自然地形、歴史や文化などの景観資源を發揮しながら、その地域にふさわしい景観形成の方針を作成し、それぞれの地域の個性を活かした景観形成を誘導していきます。

項目	方針
「まちの記憶」を活かした景観形成	・土地利用や街路網の変遷、そこで展開されてきた人々の営みの歴史や文化など地域に刻まれた「まちの記憶」を活かした景観形成を誘導していきます。
水とみどりを活かした景観形成	・建築物の更新等によって失われがちなみどりの保全を促進していきます。 ・水辺やみどりを創出する建築計画を誘導していきます。 ・公共施設や大規模施設、斜面緑地や寺社のままとみどりを活用し、都市に潤いを与え品格を高めるまちなみ景観の形成を図ります。

出典:「新宿区都市マスタープラン」p76

(2) 賑わいと潤いのある景観形成の誘導

新宿駅周辺などの業務商業施設の集積した地域や新宿通りや明治通り沿道などにおいては、地域の特色を活かし、風格のあるまちなみの形成や快適な歩行者空間の整備などを進め、風格と賑わいのある景観を創出していきます。また、神田川、妙正寺川、外濠などの水辺や、大規模施設のみどり、公園等については、水辺とみどり豊かな潤いのある景観形成を促進していきます。

② 潤いのある景観形成

項目	方針
水辺の景観軸を活かした親水空間の創出	・神田川、妙正寺川、外濠などの水辺の景観を活かした親水空間の創出、周囲のまちなみや遊歩道などの整備を進めていきます。
みどりの景観ゾーンとネットワークの形成	・「七つの都市の森」を核に、潤いあふれる景観形成を図ります。また、みどりの景観ゾーンでは積極的にみどりを創出し、これらを連続させるみどりのネットワークの形成を図ります。

出典:「新宿区都市マスタープラン」p77

「新宿区景観まちづくり計画」  
景観形成基準

一般地域		
<b>■建築物の建築等</b>		
届出対象行為	建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更	
届出対象規模	建築物の高さ>10m又は延べ面積>300㎡	
景観形成基準	形態・意匠	○外壁の色彩や素材は、隣接する建築物や周辺景観との調和を図る。 ○形態意匠は、建築物単体のバランスだけでなく、隣接する建築物や周辺景観との調和を図る。
	その他	○敷地内に歴史的な建造物や残すべき自然などがある場合は、積極的にこれらを守ります。 ○隣接する建築物の壁面等の位置を考慮した配置とする。 ○附帯する設備等は、建築物と一体的に計画するが、歩行者や水平方向からの見え方に配慮し、緑化や目隠しなどによる修景を行う。 ○附帯する構造物や施設等は、建築物との調和を図るとともに、歩行者からの見え方に配慮した修景をする。 ○外構は、敷地内のデザインだけでなく、隣接する敷地や道路など、周辺景観との調和を図る。 ○敷地内ではできる限り緑化を行う。 ○夜間の景観に配慮し、周辺の景観に応じた照明を行う。
ただし、建築物の高さ>60m又は延べ面積>30,000㎡の場合は、下記の景観形成基準を加えるものとする。		
景観形成基準	形態意匠	○色彩は、別表3の色彩基準に適合するとともに、隣接する建築物や周辺景観との調和を図る。
	その他	○隣接する敷地や公共施設と一体となったオープンスペースを新たに創出するなど、周辺景観に配慮した配置とする。 ○壁面の位置の連続性や、適切な隣棟間隔の確保など、隣接する建築物や周辺景観との調和を図る。 ○周辺の主要な眺望点(道路、河川、公園など)からの見え方に配慮するとともに、周辺の建築物のスカイラインとの調和を図る。 ○緑化にあたっては、生態系にも配慮した樹種の選定を行うとともに、積極的に屋上や壁面の緑化を行う。

出典:「新宿区景観まちづくり計画」p42

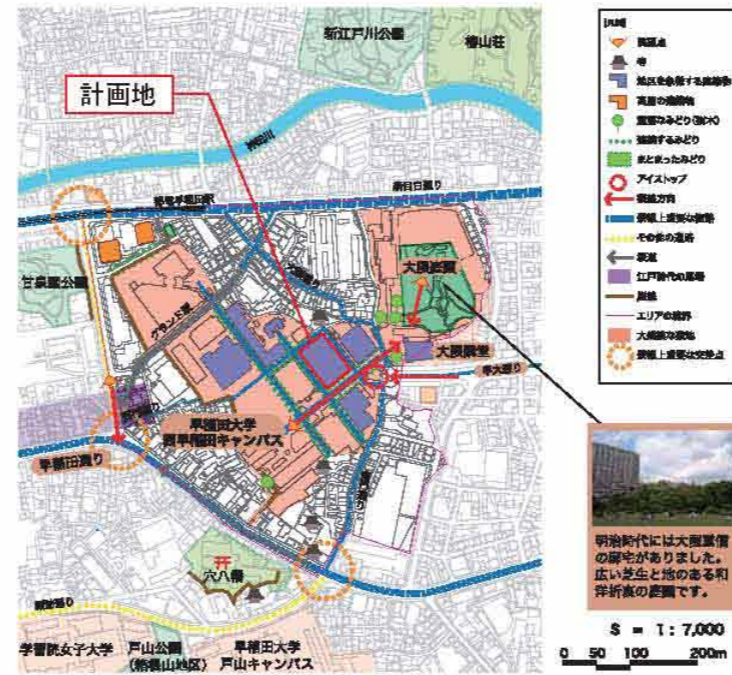
「新宿区景観形成ガイドライン」  
景観特性

- ・計画地は、戸塚地区の中で「早稲田大学周辺エリア」の早稲田キャンパス(ガイドライン中表記:西早稲田)に位置します。
- ・昭和初期に建造された現建物も「地区を象徴する建築物」となっており、大隈講堂など周辺の歴史ある大学建物と合わせて、早稲田大学の特徴となる景観を形成しています。
- ・早大通りや大隈講堂前など、キャンパス周辺から認識し易い施設となっています。

6-2 早稲田大学周辺エリア

明治15(1882)年に東京専門学校として創設された早稲田大学とともに、その周辺も発展してきました。大正5年発足の早稲田商店会をはじめ周囲には7商店会が広がり、活気にあふれています。また、昭和2(1927)年落成した「早稲田大学大隈記念講堂」は、大学だけでなく周辺地域のシンボルとなっています。

景観特性



1. 大学とともに歩んできた商店会 2. 早稲田大学の景観 3. 地域のシンボルである大隈講堂



大学の周辺には7つの商店会があり、大学の発展とともに商店会も発展してきました。学生街の賑わいを、今後もより一層強化していくことが必要です。



その広大な敷地により、大学自身が周囲の商店会とともに一つのまちとなっています。周辺地域との調和を図るために、その敷地外の地域に対する配慮が必要です。



大隈講堂は、大学だけでなく地域のシンボルとなっています。重みのある茶系を基調とした色彩や、建物高さや周囲との敷地の調和などにより、圧迫感を与えずに、風情ある建築物となっています。国の重要文化財です。

景観形成の方針

- ・大隈講堂からの眺めを保全し、早稲田大学がまちに溶け込んだ景観をつくるため、計画においては現建物のある風景の継承を心がけます。
- ・D棟計画周辺の既存樹木(高木)は保存(工事中一時仮移植)するものとし、その他キャンパス内や大隈庭園にある既存の豊かな緑の維持・保全を行います。
- ・開放的な正門付近の空間を維持します。敷地境界部の設え・緑化については適切な範囲や手法を検討します。

景観形成の目標

早稲田大学と周辺商店会とでつくる活気あふれるまちなみへ

早稲田大学と周辺商店会とともに発展してきた活気あふれるまちなみをさらに発展させるとともに、大隈講堂や大隈庭園からの眺めを保全する。

景観形成の方針

1. 早稲田大学と周辺商店会とが一体となった学生街の景観をつくる

景観形成の考え方

早稲田大学の拡大とともに発展してきた周辺商店会と大学が一体となった賑わいあふれる景観をつくる。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲と調和を図る
- 早稲田通り沿いや大隈通り沿いでは、間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 低層部は賑わいを感じられるような開放的な意匠とする
- 夜間景観に配慮した照明計画とする



早稲田大学と周辺商店会が一体となった景観

2. 早稲田大学がまちに溶け込んだ景観をつくる

景観形成の考え方

大学と地域とを隔てる壁を開放的なものにし、大学の持つ活気あふれる景観を地域に溶け込ませていく。

具体的な方策

- 敷地境界の垣・さくは、高さを抑え、開放的なものとする
- 壁面は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する(壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図るなど)
- 敷地境界部においては、生垣などにより積極的に緑化を行う



早稲田大学がまちに溶け込んだ景観

3. 大隈講堂を中心とした落ち着いた景観をつくる

景観形成の考え方

エリアのシンボルとなる大隈講堂の眺めを保全するとともに、周囲も一体となった落ち着いた景観をつくる。

具体的な方策

- 大隈講堂への眺めや大隈庭園からの眺めに配慮した、落ち着いた形態意匠および色彩とする
- 大隈庭園のみどりを保全する
- 大隈庭園周辺では、積極的に緑化する
- 大隈講堂への眺めを阻害する場所については、屋上広告物は設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する



シンボルとなる大隈講堂を中心とした落ち着いた景観

出典:「新宿区景観形成ガイドライン」戸塚地区6-2

※当該計画は今後の行政協議等・今後の計画により変更となる場合があります。

## 【計画概要】

計画名称 : 早稲田大学早稲田キャンパスD棟 (仮称)  
 建築用途 : 大学  
 建築面積 : 2,400.00 m<sup>2</sup>  
 延べ面積 : 29,000.00 m<sup>2</sup>  
 構造 : S造 (一部SRC造・RC造)  
 基礎 : 直接基礎  
 階数 : 地上 15階 ・地下 2階  
 建築物の高さ : 75m

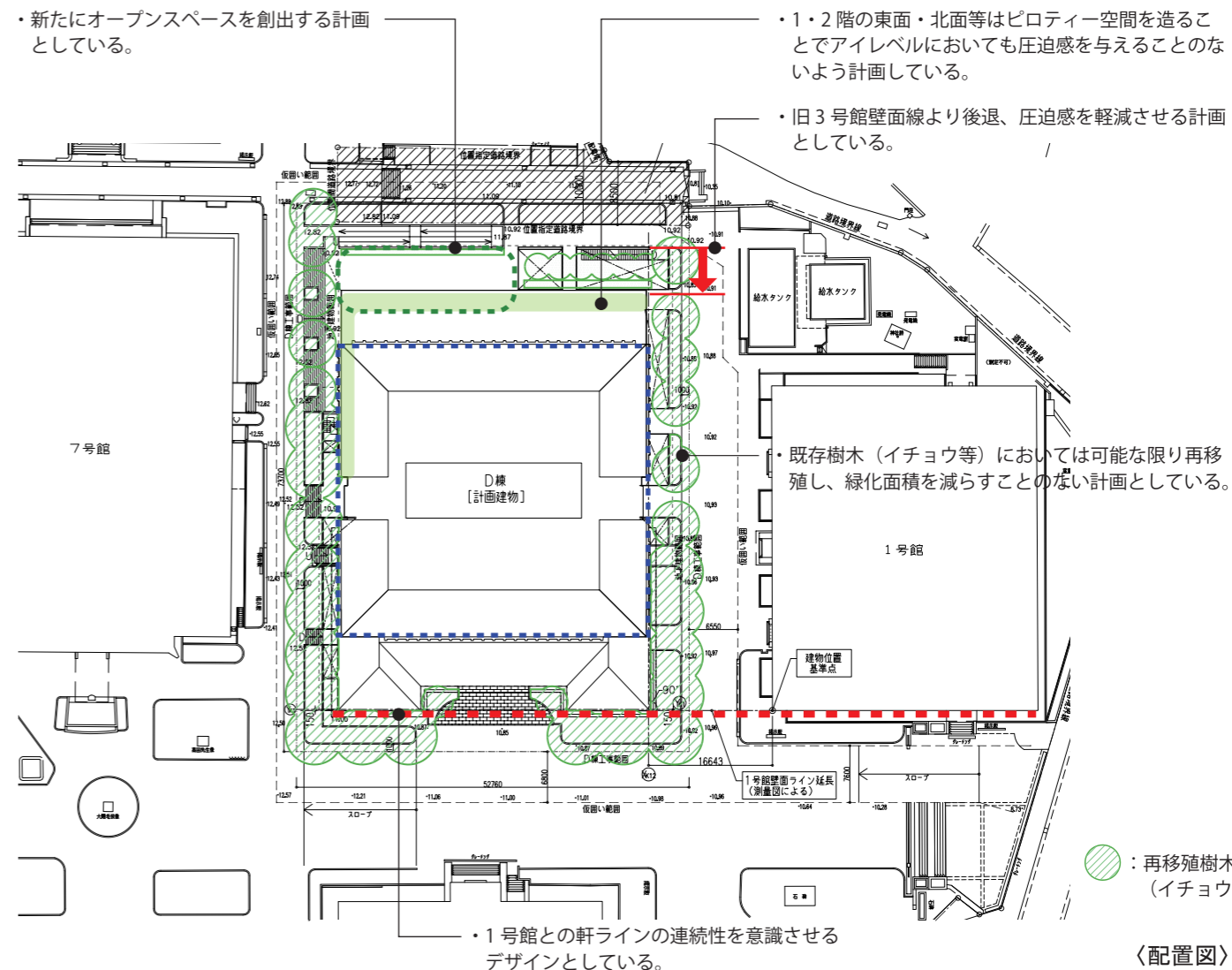
※今後の行政協議等により面積・階数・高さ等の確定をいたします。

- ・高層部は縦強調のデザインとし、キャンパス内の他施設との調和を図っている。
- ・旧3号館を再現、塩焼瓦を再利用するなど、積極的に従前の面影を残すよう計画している。

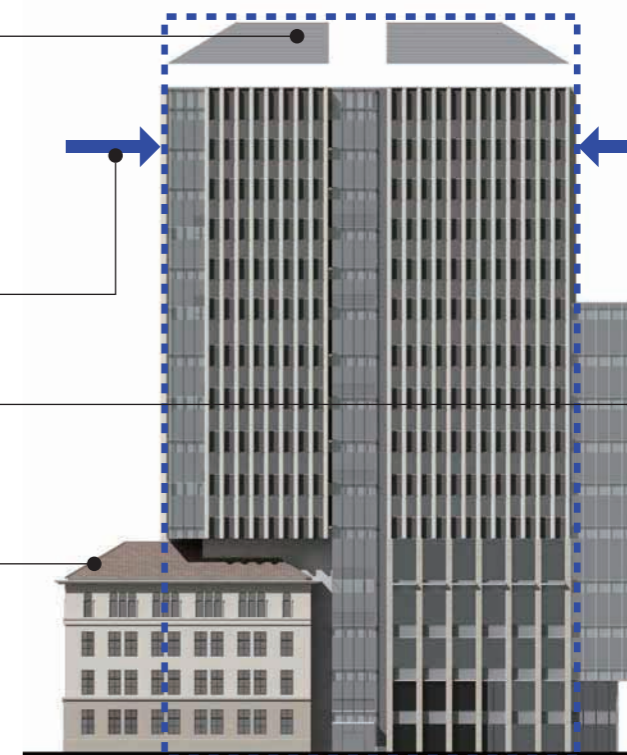


外観イメージ：正門より大隈モール側を見る

- ・1号館との軒ラインの連続性を意識させるデザインとしている。
- ・既存樹木においては可能な限り再移植し、緑化面積を減らすことのない計画としている。



- ・屋上階に設置している設備機器は太陽光ルーバーによって水平方向からは見えないよう配慮している。
- ・計画建物北側の商店街等周辺地域に対し圧迫感を与えることのないよう壁面ではなく、リブ柱状の立面としている。
- ・高層部は南面・北面共に壁面線をセットバックさせ、圧迫感を感じさせないデザインとしている。
- ・キャンパス内の他の施設でも使われているスクラッチタイルを使用することで周辺環境との調和を図っている。
- ・旧3号館を再現、景観を継承する計画としている。



〈東側立面図〉

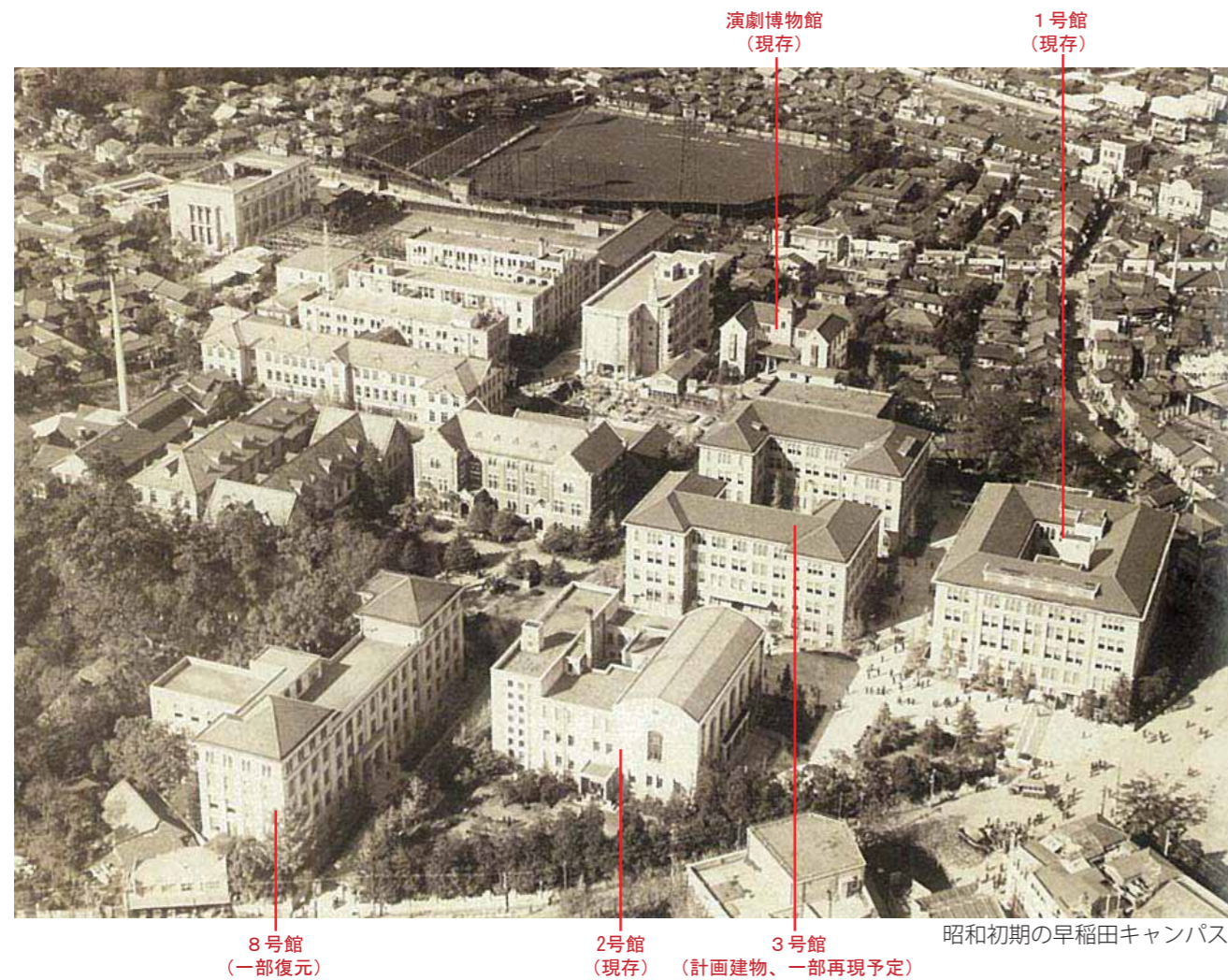
※当該計画は今後の行政協議等・今後の計画により変更となる場合があります。

# 旧3号館再現の考え方

早稲田大学は、1882年（明治15年）10月21日に現在の場所に設立された「東京専門学校」を前身とします。1902年（明治35年）早稲田大学に改称し、大学部と専門部を新設し、大学部に政治経済学科、法学科、文学科を設置しました。

早稲田キャンパス内にある旧3号館（南側部：今回再現部）は桐山均一氏設計による地下1階地上4階建ての建物であり、1933（昭和8）年の竣工から77年もの年月が経過しています。その間に北部を増築、南北を繋ぐなど、増築を繰り返し。中庭のある現在の姿となっています。

今回計画となる旧3号館の敷地は、地域の象徴である大隈記念講堂を中心とした歴史継承ゾーンとなっており、キャンパス内でも特に景観継承を意識したエリアとなります。D棟計画においては、大隈記念講堂と大隈像を結ぶキャンパス内のメインのモールに対し、周辺建物との連続性を考慮し、旧3号館南側部を再現し、かつての情景を将来へ繋げる計画としています。

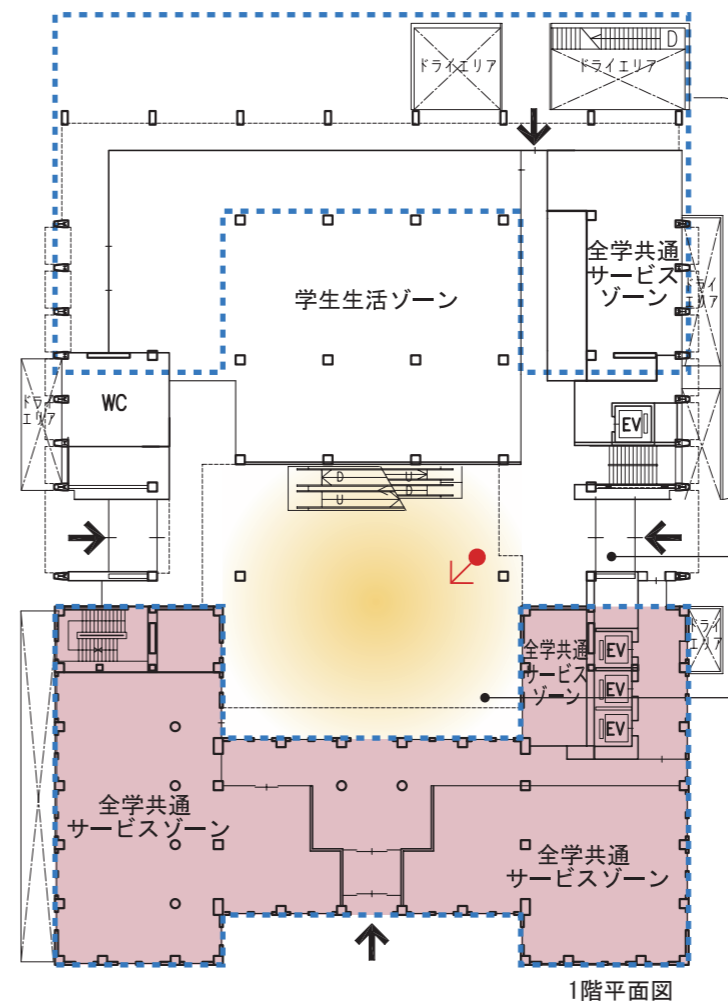


・外装計画については旧3号館を調査し、竣工当時の素材・色彩を再現する計画としています。低層部（既存再現部）の屋根においては既存の塩焼瓦を可能なかぎり再利用し、積極的に従前の面影を残す計画としています。（立面図参照）

・植栽計画については、既存樹木（イチョウ・キンモクセイ）を可能な限り再移植し、イチョウ並木のある早稲田キャンパスの特徴的な景観を壊さない計画としています。（外構図参照）



内観イメージ：旧3号館の中庭からのイメージを残した内部空間



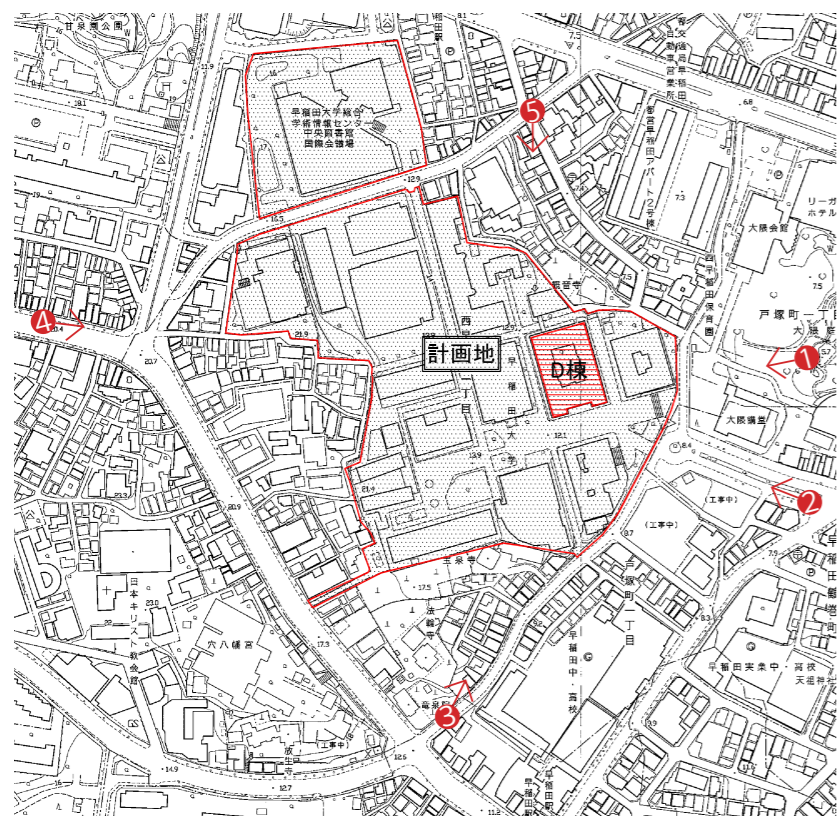
旧3号館中庭

・ピロティによって東西通り抜け可能だった旧3号館の構成を継承し、D棟においても通り抜け可能となるよう東西面にエントランスを設けています。

・内部空間においても旧3号館の外壁面を再現し、かつての中庭空間を内部において再現する計画としています。

凡例  
 - - - 旧3号館外形ライン  
 ■ 既存再現部

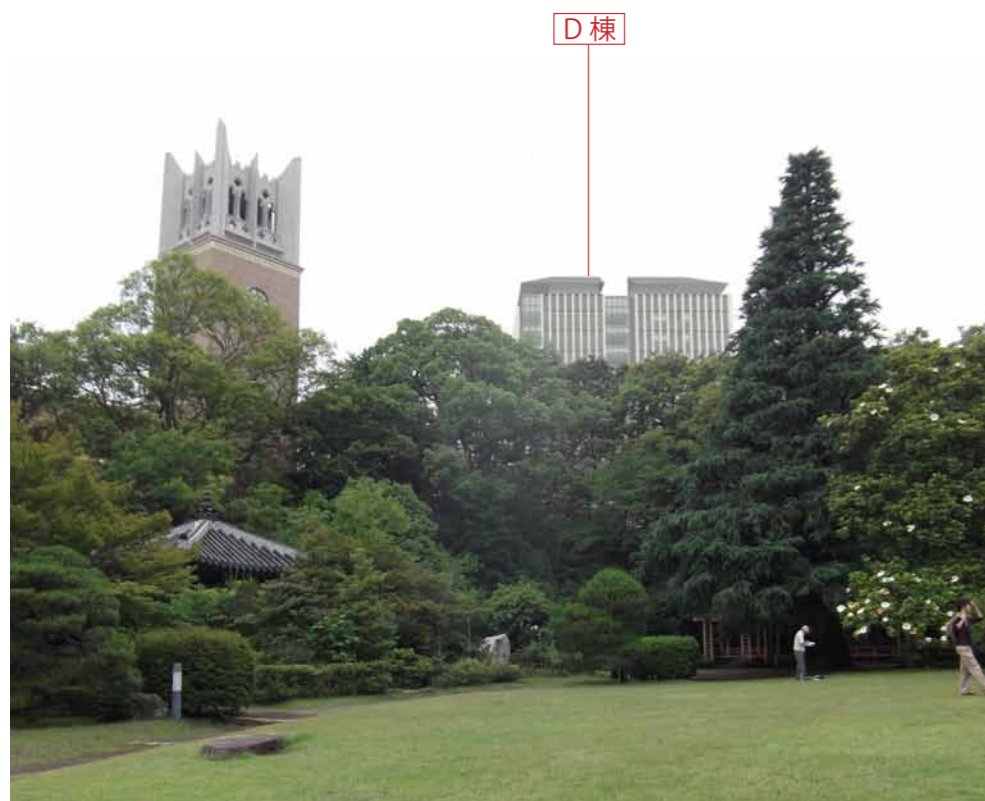
※当該計画は今後の行政協議等・今後の計画により変更となる場合があります。



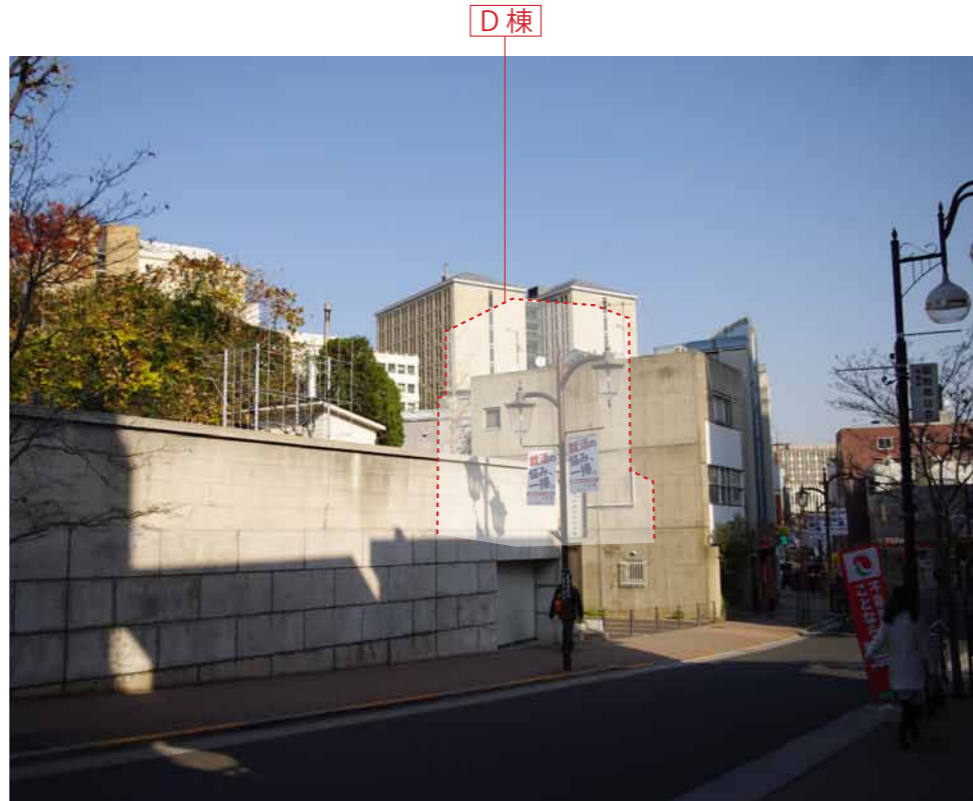
②早大通りより



④早稲田通りより



①大隈庭園より



③馬場下町交差点より



⑤大隈通り商店街より

敷地周辺からの見え方にも配慮した計画

- ・大隈庭園からの眺望を意識し、景観上庭園樹木から出来るだけ突出しないよう配慮している。
- ・建物高さをキャンパス内に建つ11号館程度に抑え、スカイラインの調和を図っている。  
(日暮里富士見坂からの眺望、また外苑の聖徳記念絵画館の景観に影響のないことは確認済みである。)

※当該計画は今後の行政協議等・今後の計画により変更となる場合があります。